



## 近畿4支部新春合同例会のご案内

テーマ：「ケンブリッジで日本のことをする」～英国留学の帰国報告～

講師：山中秀夫氏（天理大学総合教育研究センター（図書館学）助教授）

日時：2006年2月4日（土）午後2時半～

（午後2時より受付開始）

会場：奈良県女性センター 3F 会議室C

奈良市東向南町6番地 TEL 0742-27-2300

近鉄奈良駅より徒歩3分・JR奈良駅より徒歩15分

<http://www.pref.nara.jp/joseic/>

（会場には、直接問い合わせしないでください）

参加費：無料

終了後、懇親会を予定しています。

懇親会会場：チャイナダイニング 飛天

奈良市東向南町26（講演会会場の向かいです）

TEL 0742-26-1777

懇親会費：5,000円

懇親会に参加を希望される方は、できるだけ1月31日までにお申し込みください。

### 【お問い合わせ・懇親会お申し込み】

土井貴美子（奈良女子大学附属図書館）

e-mail [doi@lib.nara-wu.ac.jp](mailto:doi@lib.nara-wu.ac.jp)

TEL 0742-20-3303

FAX 0742-20-3250

### [目次]

近畿4支部新春合同例会のご案内	…	1
奈良先端科学技術大学院大学の電子図書館について（前編）	…	2
NACSIS-ILL 統計情報から見た ILL 取引の状況について	…	5
会費納入のお願い	…	8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：[dtkk@rg7.so-net.ne.jp](mailto:dtkk@rg7.so-net.ne.jp)（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

## 奈良先端科学技術大学院大学の電子図書館について（前編）

井上 敏宏

支部報に原稿を書く度に毎回、片道2時間の通勤はしんどいあの何だのと愚痴ばかり書いていますが、その片道2時間の職場で、もうすぐ二度目の年末年始を迎えようとしています。昨年度は、閲覧・整理の両方を担当する係で、まだあまり違和感なく過ごせましたが、今年度は電子図書館という経験のないことを担当しましたので、年度末も近づいてくることで、ちょっとこの仕事を振り返って、紹介等させていただこうかと思えます。

### 本学の機関リポジトリ？

以前、名古屋大学電子図書館国際会議への参加報告でも軽くふれましたが、本学修了者の学位論文等の公開についてです。

機関リポジトリということで、学内で生産された学術情報を収集、蓄積、発信することが注目されている昨今ですが、当館では電子図書館を開始した平成8年度より（開学した平成3年度に附属図書館を設置。電子図書館の開館は平成8年度）学内修了者の学位論文、情報科学研究科のテクニカルレポートおよび特別講義等を収録したビデオなどを電子的に蓄積、データベース化して学内もしくは学外に公開してきました。普段はデータベース化もしくは電子化と呼んでいます。これもひとつの機関リポジトリ？という事で、このうち学位論文の電子化について紹介します。

本学では、原則的に情報科学研究科は修士および博士ともに修了後すぐに公開可能。アクセスはフリーで学外からでも本文が自由に閲覧できます。バイオサイエンス研究科、物質創成科学研究科については修士の場合、学内に限定した公開で、公開時期は修了者がいくつかの選択肢から選べます。修了後、1年後もしくは2年後であったり、学術雑誌等に投稿して受理されたら、という選択もあります。また、バイオサイエンス研究科の博士の場合は修了後1年後に公開可能になり、公開後はアクセスフリー。物質創成科学研究科博士の公開時期は選択式で、公開後はアクセスフリーです。

これが基本原則ですが、勿論、電子化して公開しても良いという本人の承諾書がない限り勝手には公開しません。学生さんが学生課（附属図書館は学術情報課）に学位審査請求の書類を提出する際に同時に提出してもらい、学生課から手渡された後に作業開始です。本学は年に四回（6月、9月、12月、3月）修了時期があるのですが、その度ごとに作業はせず、一年度分をまとめ、翌年度に作業します。

また、承諾書は学生課経由で提出ですが、本文については、平成15年度から学位論文提出用のサーバを準備し、学生はWeb画面（アクセスは学内のみ）で自分のアカウントを用いて提出システムにログインし、自分の端末のローカルディスクにあるPDFデータをアップできるようになりました（それまでは紙媒体から電子化）。PDFの提出依頼は修了予定者に学位授与式の一ヶ月前を目途にメールで通知しています。

なお、提出システムでPDFをアップする際には、下記の項目も自分でフォームに入力してもらいます。①学籍番号②論文タイトル(日本語、英語)③論文タイトルヨミ(日本語の分)④氏名⑤氏名ヨミ⑥キーワード(6つまで入力可)⑦論文の言語、以上です。タイトルヨミについては学生自身が入れたままでは、目録規則に則っていませんので、図書館側でまとめて修正しますが、原則、著者である学生自身が入力した書誌情報を登録します(NACSIS-CATには未登録)。

## 電子化進捗件数

平成8年度からはじめて現在のところ、情報科学研究科修士が1,551件。バイオサイエンス研究科修士が977件。物質創成科学研究科修士が406件。合計2,934件。情報博士が228件、バイオ博士が139件、物質博士が33件で合計400件。修士、博士あわせて3,334件の学位論文が電子化され、学内外に公開されています。

ついでに情報科学研究科のテクニカルレポートは、平成8年度から現在までのところ111件。科研費研究成果報告書は14年度から電子化をはじめて現在、41件。電子化が終了しています。

## 収集が大変

何事も完璧というのは難しいものですが、なかなか思うようにはいかないもので、大半の学生の方は協力してくださっていますが、若干、協力できないと思うのか、単にうっかりして忘れていただけなのか、必要なものすべてはなかなか、揃いません。

例えば、平成16年度の修了者数(修士、博士とも)は450名です。このうち、承諾書の提出者数が434名。ところがPDF提出者数は396名です。434と396の差、38名が承諾書を出したにもかかわらず、PDFを出さなかったのか?と言うとそうでもなく、PDFは出ているのに承諾書のない方が5名います。逆に承諾書が出ているのにPDFが出ていない方が43名います。

承諾書があって、PDFがない場合はまだ良いのです。冊子の提出はされている(冊子の保管も昨年度から附属図書館で集約しました。それまでは各研究科事務室。)ので冊子から電子化できます。ただし、冊子で保管するためのものですから、スキャナにかけるための裁断ができません。自動ページめくり装置のついたコピー機の中に冊子を入れ、コピーをとり、そのコピー用紙をスキャナにかけます。

問題は、PDFがあるのに承諾書がない場合です。PDFを提出しているのですから、公開しても良い気持ちはあったと思うのですが、承諾書がない限り、決して手元のPDFに手をつけることができません。学内で修士から博士に進学していれば連絡もとりやすいですが、学内に既に在籍しない場合は、連絡先を確認し提出してもらえよう、お願いするのも大変です。

このように学位論文は承諾書の集まりとPDFの集まりに不一致があって大変です。一方、科学研究費補助金研究成果報告書の場合は、現在のところすべて冊子をスキャンした上でのPDF化です。承諾書さえ集まれば良いのですが、科研費の場合、研究代表者は本学の教員であっても研究分担者があちこちにいらっしゃいます。京都大学に1名、大阪大学に1名・・・合計5名の研究分担者というように。この場合、研究代表者の承諾書は勿論ですが、5名の研究分担者から、電子化承諾を研究代表者に委任するという委任状をもらって提出していただく必要があります。この委任状がなかなか集まりません。最初、承諾書、委任状の様式は科研費の担当部署である研究協力課から、他の提出書類や説明書類一式とともに、各教員に渡されます。その関係で承諾書の提出先も研究協力課にしています。しかし、なかなか集まらず、結局、学術情報課から提出のお願いを何度もしているのが現状です。

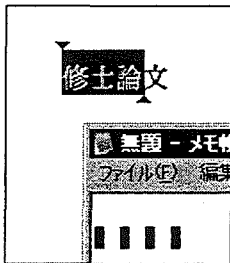
## 不良のPDF

このようにして著者の許諾が得られた論文は、サーバに登録されOPACから検索可能になります。基本的に冊子の場合と同じような書誌情報を作成しますが、アクセス権を設定するフィールドがあるので、ここに学内限定か学外にも公開可能かを区別するフラグを入れます。学内のみのPDFは学内アカウント・パスワードの認証後、学外公開のPDFは認証なしで本文を閲覧するためのアイコンをクリックすれば、本文PDFが表示されます。

PDF作成方法には二通りあります。過去の学位論文、また現在でもPDFが手に入らなかった学位論文および科研費の成果報告書は紙をスキャナで読み取り、一度TIFF形式の画像ファイルにします。しかしこの状態では人間の目なら、文字が読めますが、機械的に文字は認識できません。そこでスキャナで読み取った際、同時にOCRで機械可読テキストに変換し、このテキストを透明にしてTIFF画像の上に貼り付けた上でPDFにしています。

しかし、最近の学位論文の大半は学生自身の手で作成された PDF ファイルがありますので、こちらの作業としてはこのファイルをサーバにアップするだけになります。簡単な作業だと先日までは思っていました。ところがつい最近になって問題のある PDF を見つけてしまいました。

一部の学生は TeX (テフ) という組版ソフトを利用して論文を作成しています。TeX で作られた文書を PDF 化する場合、①dvipdfm というツールを使って変換、②一度 PostScript ファイルに変換後、Acrobat で変換、③PostScript ファイルに変換後、ghostscript の ps2pdf を使って変換などという方法があるらしいのですが、③の方法で PDF 化した場合、テキストが文字化けしたようになるのです。勿論、人間の目には何らおかしく見えません。Adobe Reader 等では双眼鏡のアイコンがついた「検索」のボタンがあり、本文を検索できるようになっています。ここでの検索は人間の目に見えているテキストではなく、どうやらそこに透明テキストのように（仕組みとしては別のものらしいですが、この辺はよくわかりません）テキスト情報が埋め込まれていて、それを検索しているらしいのです。③の方法で作られた学位論文 PDF で「修士論文」と書かれた部分を Adobe Reader のテキスト選択機能を使って、選択し、編集(E)→コピー(C)して「メモ帳 (NotePad)」に貼り付けると「修士論文」だったはずの文字は下図のようなものになってしまいます。



これは Adobe の Reader 等ソフトウェアの中での話ですが、本学の OPAC は本文まで対象にした全文検索が可能です。検索の際、参照しているのがこのテキストなので、この PDF だと本文の検索ができません。そんなにたくさん、この形式の PDF は存在していませんが、やはり問題です。学位論文提出システムのアナウンスページにこの方法をとらないよう、注意書きを加えましたが、今後なくなるかどうか・・・。

#### 前編のまとめ

学内で生産される学術情報を公開するとなると、決して図書館だけで動くものではありません。学位論文は学生自身と学生課、科研費成果報告書は申請する教員と研究協力課の協力なくしては成り立ちません。しかし、著作権者である学生、教員に理解していただけない事も多々あります。今後このような動きは、図書館だけで進めるのではなく、役員や他課等の協力を得て、大学として「学内生産物を積極的に発信する」という方針を取り決め、ある程度は「義務化」してもらわないと、電子図書館を担当するこの仕事は非常に辛くなると思います。

今年度は「間に合わせ」人事であり他ではできない経験をさせていただき、いろいろな事で「あたふた」とさせてもらいました。特に今年度から試行を開始した「授業アーカイブ」では、本当に振りまわされっぱなしで、大変な思いをしました（「授業アーカイブ」については後日、もう少し詳細を書こうかと・・・）。

でも、実はこの部署で年度内一番の大きなイベント「NAIST 電子図書館学講座」が先日終了しましたので、若干ほっとしているところです。

いのうえ としひろ（奈良先端科学技術大学院大学学術情報課）

# NACSIS-ILL 統計情報から見た ILL 取引の状況について

## 大綱 浩一

NACSIS-ILLにおける取引状況については2005年5月の京都ワンディセミナーで報告済みですが、最近 ILL 流動統計（館種別）の2004年度等が公開されましたので、以下続報いたします。

- ・ NACSIS-ILL の利用機関および組織数は私立大学において2005年も引き続き増加している（表1および表2）。
- ・ ILL 文献複写等料金相殺サービス開始(2004年4月)後、50機関(372→422)、71組織(482→553)の増加となっている。

■表1：NACSIS-ILL 利用機関数 ([http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill\\_stat\\_prtc.html](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_prtc.html))

利用機関	H4	H5	H6	H7	H8	利用機関	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17_8
国立大学	93	96	97	97	98	国立大学	98	98	99	99	99	97	97	98	97
公立大学	3	7	10	15	21	公立大学	31	39	47	60	64	67	70	71	73
私立大学	44	65	97	120	149	私立大学	175	205	239	272	317	343	372	411	422
短期大学	3	6	13	16	29	短期大学	23	35	42	46	45	55	62	66	68
高等専門学校						高等専門学校	31	41	48	49	50	53	54	54	56
その他	11	16	25	31	39	大学共同利用機関等	13	13	12	13	13	13	15	10	11
						地方研究機関	15	20	24	26	5	6	6	6	7
						公立施設	4	4	6	7	6	7	8	5	7
						その他	8	12	14	14	47	54	62	78	81
合計	154	190	236	279	336	合計	398	398	532	586	648	695	736	789	812

■表2：NACSIS-ILL 利用組織数 ([http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill\\_stat\\_prtc.html](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_prtc.html))

利用組織	H4	H5	H6	H7	H8	利用組織	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17_8
国立大学	204	227	227	231	234	国立大学	243	250	254	262	268	272	274	282	283
公立大学	3	11	14	21	27	公立大学	39	50	60	73	81	87	91	94	98
私立大学	51	74	100	136	178	私立大学	212	252	300	344	397	435	482	538	553
短期大学	3	6	13	16	31	短期大学	25	37	43	47	49	56	63	67	69
高等専門学校						高等専門学校	31	41	48	49	50	53	54	54	56
その他	11	16	25	31	41	大学共同利用機関等	15	15	14	16	16	16	18	14	15
						地方研究機関	15	21	26	28	5	5	7	8	9
						公立施設	4	4	6	7	6	7	9	6	8
						その他	8	12	14	14	54	70	76	82	95
合計	272	329	379	435	511	合計	592	592	768	840	926	1001	1074	1155	1186

- ・ また、ILL 文献複写等料金相殺サービス参加機関数も公立大学・短大、私立大学・短大、その他において2005年も引き続き増加している(表3)。
- ・ ILL 文献複写等料金相殺サービス開始(2004年4月)後、公立大学・短大では21機関(27→48)、私立大学・短大では134機関(234→368)、その他では26機関(35→61)の増加となっている。

■表3：ILL 文献複写等料金相殺サービス参加機関数（大学図書館協力ニュース、  
<https://illoffset.nii.ac.jp/icos/OrganizationSearch.do>）

参加機関	2004年4月	2004年6月	2004年9月	2004年12月	2005年12月
国立大学法人等	112	113	113	113	113
公立大学・短大	27	30	36	38	48
私立大学・短大	234	258	277	295	368
高等専門学校	53	54	54	54	55
その他	35	35	43	46	61
合計	461	490	523	546	645

- ・次に、複写依頼および受付件数は国立大学において2000年以來2004年も引き続き減少している(表4および表5)。
- ・複写依頼件数では172,344件(637,517→465,173)、複写受付では156,738件(712,281→555,543)の減少となっている。
- ・複写依頼件数の減少については電子ジャーナル導入の影響が指摘されている(\*1)。
- ・電子ジャーナル導入タイトルに対する複写依頼件数が172,344+α件減少する一方、その他のタイトルに対する複写依頼件数がα件増加した結果、172,344件の減少となっているのではないかと私個人の経験的には想像される。
- ・複写受付件数の減少については後述のとおりである。

■表4：NACSIS-ILL 依頼件数：経年変化（上段：文献複写、下段：現物貸借、国公立大学以外は省略）  
[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill\\_stat\\_flowdata](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_flowdata)

依頼	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
国立	243,431	246,899	406,024	448,268	506,341	571,029	625,064	637,517	617,586	610,150	651,172	602,176	485,173
大学	9,097	13,283	15,796	20,090	24,525	31,392	39,301	44,890	48,868	43,038	50,406	48,807	48,586
公立	700	4,900	7,372	11,282	19,764	39,298	61,796	73,373	95,229	105,586	112,202	127,129	123,890
大学	13	95	404	770	1,139	2,174	3,004	3,817	4,694	5,332	5,468	6,593	6,366
私立	11,628	26,541	40,646	55,479	86,469	116,239	142,779	174,298	205,914	249,204	301,967	346,546	402,393
大学	714	1,448	2,377	4,233	7,516	9,887	13,929	18,818	20,048	22,481	25,637	28,851	32,105
合計	255,809	378,129	454,042	515,027	612,574	726,566	829,639	885,188	918,729	964,940	965,341	975,850	1,083,459
	9,824	14,927	18,579	25,183	33,180	43,463	56,234	65,625	73,610	75,851	81,554	85,251	93,955

■表5：NACSIS-ILL 受付件数：経年変化（上段：文献複写、下段：現物貸借、国公立大学以外は省略）  
[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill\\_stat\\_flowdata](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_flowdata)

受付	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
国立	247,136	360,952	422,845	473,611	530,620	619,043	690,675	712,281	706,124	707,956	668,533	634,216	555,543
大学	6,164	13,706	16,435	20,986	24,189	30,718	37,769	42,913	47,983	48,542	49,354	49,701	44,750
公立	235	1,206	2,150	3,073	5,269	10,184	19,091	28,712	37,827	45,581	54,599	62,660	87,498
大学	0	39	105	296	776	1,913	2,628	3,330	3,430	3,866	4,107	4,587	4,438
私立	10,653	22,531	35,955	49,555	79,999	112,159	136,819	168,719	197,730	227,274	258,493	296,682	371,151
大学	696	1,342	2,462	4,453	7,847	10,651	15,186	19,511	22,314	24,347	28,161	31,450	37,644
合計	258,006	385,689	460,950	526,299	615,888	741,426	846,585	909,712	941,681	980,230	981,625	993,556	1,083,459
	9,860	15,087	19,020	25,775	32,812	43,282	56,195	65,754	73,727	76,855	82,222	85,738	93,955

- ・次に、文献複写の依頼機関別依頼先および受付機関別依頼元では ILL 文献複写等料金相殺サービス開始前後の 2003 年から 2004 年にかけて大きな変化、一言でいえば国立大学および私立大学における依頼先の流動化、が見られる(表 6 および表 7)。
- ・国立大学では国立大学への依頼割合が 8.5%減少(69.1→60.6)する一方、公立大学への依頼割合が 15.4%増加(12.8→28.2)、私立大学への依頼割合が 12.0%増加(8.2→20.2)している。
- ・また、私立大学では公立大学への依頼割合が 9.4%減少(51.8→42.4)、私立大学への依頼割合が 9.4%減少(69.0→59.6)する一方、国立大学への依頼割合が 7.5%増加(13.8%→21.3%)している。
- ・以上の結果から、国立大学の複写受付件数の減少は(1)国立大学の複写依頼件数の減少、(2)国立大学の国立大学への依頼割合の減少、(3)私立大学の国立大学への依頼割合の増加などの結果であることが分かる。
- ・また、私立大学の複写受付件数の増加は(1)私立大学の複写依頼件数の増加、(2)国立大学の私立大学への依頼割合の増加、(3)私立大学の私立大学への依頼割合の減少などの結果であることが分かる。
- ・この結果は (1)支払いやすいところ、(2)安いところへの依頼が増加したためではないかと私個人の経験的には想像される。

■表 6 : NACSIS-ILL 依頼・受付件数 : 平成 2003 年度

(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/ILL/stat/flow/flow-stat\_h15.html)

文献複写		受付								合計	
		国立大学		公立大学		私立大学		その他			
依頼	国立大	437,927	69.1%	8,016	12.8%	24,281	8.2%	31,951	47.8%	502,175	47.4%
		87.2%	1.6%	4.8%	6.4%	100.0%					
	公立大	65,092	10.3%	14,811	23.6%	39,248	13.2%	7,978	11.9%	127,129	12.0%
		51.2%	11.7%	30.9%	6.3%	100.0%					
依頼	私立大	87,818	13.8%	32,430	51.8%	204,819	69.0%	21,479	32.1%	346,546	32.7%
		25.3%	9.4%	59.1%	6.2%	100.0%					
	その他	43,379	6.8%	7,403	11.8%	28,334	9.6%	5,468	8.2%	84,584	8.0%
		51.3%	8.8%	33.5%	6.5%	100.0%					
合計		634,216	100.0%	62,660	100.0%	296,682	100.0%	66,876	100.0%	1,060,434	100.0%
		59.8%	5.9%	28.0%	6.3%	100.0%					

■表 7 : NACSIS-ILL 依頼・受付件数 : 平成 2004 年度

(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/ILL/stat/flow/flow-stat\_h16.html)

文献複写		受付								合計	
		国立大学		公立大学		私立大学		その他			
依頼	国立大	336,775	60.6%	24,682	28.2%	74,838	20.2%	28,878	41.7%	465,173	42.9%
		72.4%	5.3%	16.1%	6.2%	100.0%					
	公立大	55,152	9.9%	17,389	19.9%	43,278	11.7%	8,071	11.7%	123,890	11.4%
		44.5%	14.0%	34.9%	6.5%	100.0%					
依頼	私立大	118,605	21.3%	37,114	42.4%	221,144	59.6%	25,530	36.9%	402,393	37.1%
		29.5%	9.2%	55.0%	6.3%	100.0%					
	その他	45,011	8.1%	8,313	9.5%	31,891	8.6%	6,788	9.8%	92,003	8.5%
		48.9%	9.0%	34.7%	7.4%	100.0%					
合計		555,543	100.0%	87,498	100.0%	371,151	100.0%	69,267	100.0%	1,083,459	100.0%
		51.3%	8.1%	34.3%	6.4%	100.0%					

- ・また、現物貸借の依頼機関別依頼先および受付機関別依頼元でも文献複写と同じような傾向が見られる(表 8 および表 9)が文献複写のそれよりは変化が小さい。

■表 8 : NACSIS-ILL 依頼・受付件数 : 平成 2003 年度

(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/ILL/stat/flow/flow-stat\_h15.html)

現物貸借		受付					合計	
		国立大学	公立大学	私立大学	その他			
依頼	国立大	36,773 73.8%	1,787 3.6%	8,312 16.7%	2,935 5.9%	49,807 100.0%	54.5%	
	公立大	2,797 42.4%	756 11.5%	2,635 40.0%	405 6.1%	6,593 100.0%	7.2%	
貸出	私立大	6,695 23.2%	1,756 6.1%	18,569 64.4%	1,831 6.3%	28,851 100.0%	31.6%	
	その他	3,436 56.5%	288 4.7%	1,934 31.8%	419 6.9%	6,077 100.0%	6.7%	
合計		49,701 54.4%	4,587 5.0%	31,450 34.4%	5,590 6.1%	91,328 100.0%	100.0%	

■表 9 : NACSIS-ILL 依頼・受付件数 : 平成 2004 年度

(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/ILL/stat/flow/flow-stat\_h16.html)

現物貸借		受付					合計	
		国立大学	公立大学	私立大学	その他			
依頼	国立大	32,373 68.6%	1,732 3.8%	11,348 23.4%	3,143 6.5%	48,596 100.0%	51.7%	
	公立大	2,493 39.2%	646 10.1%	2,751 43.2%	476 7.5%	6,366 100.0%	6.8%	
貸出	私立大	7,812 24.3%	1,596 5.0%	20,680 64.4%	2,017 6.3%	32,105 100.0%	34.2%	
	その他	3,112 45.2%	464 6.7%	2,865 41.6%	447 6.5%	6,888 100.0%	7.3%	
合計		45,790 48.7%	4,438 4.7%	37,644 40.1%	6,083 6.5%	93,955 100.0%	100.0%	

## 参照文献

1. 加藤信哉 電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響 カレントアウェアネス 281 2004.09

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/current/no281/doc0002.htm>

おおつな こういち (京都大学附属図書館)

## ◇ 会費納入のお願い ◇

寒冷の候、会員みなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

毎号、大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に 2005 年度 (大図研会計年度 2005.07 - 2006.06) に入っておりますので、2005 年度の会費の納入をお願い致します。また、2004 年度以前の会費を納入いただけない会員みなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

**年会費は、7,000 円 (大図研会費 : ¥5,000 + 京都支部会費 : ¥2,000) となっております。**

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904

大学図書館問題研究会京都支部

ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 [dtkk@rg7.so-net.ne.jp](mailto:dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお願い致します。